



沖縄名護市辺野古での新基地建設にゲート前座込みで反対を続ける上間芳子さん(中央)と枚方市民が交歓。(11月3日 大阪市北区扇町公園 団結まつり会場)

# 平和がいちばん

2015年11月15日

第 101 号

平和で豊かな枚方を

市民みんなで作る会

## さよなら「格差・貧困社会」

市長の所信表明があり議会で議論が交わされました。枚方を「平和で豊かな町」にするため市政改革は常に必要です。またこれまで積み重ねられてきた良いものは大切にしていかなければならないのも当然です。市長は「維新の会」に所属しています。維新は「新自由主義」の旗振り役です。これまでであった経済的・制度的ないろんな規制は取っ払おうという主張です。市長が「前例や既成概念にとらわれることなく…」という中味がこの「新自由主義」であるなら大いに問題です。市民には富める者とそうでない者、力のある者とそうでない者がいます。市民みんなの生活の安定と心も豊かに暮らせる町にするためには、とりわけて社会的弱者に施策が必要です。学校教育について市長は「生き抜くための力を育む」と強調します。この「力」が子どもの頃から競争に勝ち抜くための力だとする

なら賛同できません。人口減少や少子化は数値化されます。子どもの貧困も把握されます。しかし広がっている子どもの間での“いじめ”や親からの“虐待”などの「貧困」は社会の底によどんでいます。子どもの貧困、さらには介護の厳しい実態や非正規雇用の増加などは「新自由主義」が生み出したものだと私たちは考えます。端的に言えばコストダウンの金額と競争の数値だけが独り歩きする政策では、格差をより拡大し強い者だけが生き残れる町になってしまいます。

新市長が臨んだ市議会、議論は低調でした。高揚した意欲はみられず、今日の課題である憲法や平和への考え方が披歴されることもなく、また国や府に対する要望も聞かれませんでした。私たち「会」は議会での論戦に積極的に挑むと同時に、市長への申入れなど市民運動を強めることで市長の姿勢を質していきます。

### 投稿

辺野古より

多田 頼子

沖縄で開催される研修に合わせ辺野古に行ってきた。名護市の友人宅に泊めてもらった翌朝、五時に起床して友人と辺野古ゲート前に向かう。

六時過ぎ、機動隊の車がゲートから少し離れた場所まで配置につく。作業車両がゲート前に来ると、一人また一人と車の前に立ち「入らないで」「帰ってください」と訴える。その人たちを県警が「危ないから車道に出ないで」と歩道に移動させる。車道に寝っころがって抗議すると県警が数人でその人を運ぶ。作業車両は少しずつゲート前に進んでいく。ゲート前には何十人もの人たちが座り込んでいるが最後には基地の中に入っていく。やはり日中のゲート前とは様子が違った。こういう抗議行動が毎日繰り返されている。早朝行動は最初二〇名くらいだったのが、二百人くらいに増えた。それでも足りない。「明日から百名規模の機動隊が警視庁から来ると聞いているが、警視庁に指揮をあげてはいけない。中隊長！今日はいつもと態度が違うじゃないか！そこにいる警視庁の機動隊員に指示さ

れているんだろう。どこまでも沖縄をコケにするならこつちにも覚悟がある。方針をかえるからな！」と沖縄平和センター代表の山城博治さんは叫んだ。方針を変えろというのは沖縄は日本から独立するということらしい。それはそうだろう：と私は思った。私は日本政府（ヤマト）が沖縄県警と抗議行動をしている人たち（うちなんちゅうだけではない）を戦わせている現実を目の当たりにした。山城さんの言葉と人柄には愛とユーモアを感じる。それは辺野古行って山城さんに会ってみないとわからないと思う。

翌日から一人で伊江島、今帰仁、大宜味村に行った。その先々で沖縄の人たちの複雑な思いを肌で感じた。六日、再び早朝行動に参加することにした。警視庁からの機動隊が百名ほど増員されて三日まえよりも緊迫した様子で怖いと思った。

最後に本番の『性暴力禁止法の制定に向けて』という全国大会に参加した。「基地の米兵による強姦事件が後を絶たない。暴力を許さない社会実現のために…」講演で聞く言葉が、この旅の始まりからすべて通じていると感じた。



10月13日 **燃え立つ沖縄辺野古の闘い** 翁長沖縄県知事は辺野古沖埋立て承認は瑕疵があると取り消した。しかし政府・防衛省は政府・国交省に異議申し立てをした。埋立て手続きを申請した政府が同じ政府に異議申し立てをする。公平な判断をするはずがない、茶番だ。東京警視庁機動隊を使って反対派住民を排除して工事再開を強行した。比較的賛成派が多い一部の地域に国は県や名護市の頭越しに直接補助金を交付するという。なりふり構わず辺野古に新基地をつくる。地方自治、民主主義の破壊だ。辺野古から自衛隊を海外派兵し、海外で軍事行動する。これが安倍首相のシナリオ、戦争法の具体化だ。

10月20日 **市長所信表明** 詳細は議会報告を参照ください。市長は自らの給与の2割カット、退職金ゼロの条例化すると発言した。私も反対ではない。ただし職員の給与にそのまま連動させてはならないと考える。これを機に市長だけでなく、議員の報酬も少なくとも2割カットをすべきだと思う。この動きをつくりたい。皆様のご支援をお願いします。

11月3日 **「団結まつり」に参加** 香里ヶ丘地域の皆さんと枚方の美術館建設問題の現状を報告した。沖縄から新基地建設反対運動を続けている上間芳子さんの報告があった。国は工事再開を強行したが、現地では連日の座り込み行動を続けている。国は新基地建設を簡単に進めることは出来ない。国があきらめるまで闘いは続く。国より一日でも長く闘い続けて勝利するとの熱い思いが伝わった。また、関西各地で約1ヶ月かけて取り組んだ辺野古新基地建設の賛否を問う市民投票の結果が発表された。結果は建設反対が90%を超えた。関西全体で投票総数8212票、反対7613(92.7%)、賛成527、無効72。枚方では投票総数1177票、反対1080(91.8%)、賛成83、無効14、でした。街頭などでご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

10月22日 10月分議員報酬から213,080円を大阪法務局に供託

キャン  
ペーン

## 「政務活動費」は廃止

4回目

◆議員は「政務活動費」で本が買えます。ガソリン代や電話代は支出額の1/3の補填ですが、本代は全額です。議員が議員活動に必要なのはどんな本だと思いますか？ 昨年度の収支報告書を一人ずつ見ましたが、領収書にある「表題」を見る限り、議員職固有の本は見当たりません。例えば「介護保険」や「生活保護」に関係する本など一般書店で売っている、少し関心のある市民なら内容と値段を吟味して購入する本です。しかもそれらのほとんどは市立図書館に蔵書されています。昨年度は大衆小説『海賊と呼ばれた男』上下巻を政活費で購入したと報告している議員もいました。市民が自費で買う本が、なぜ議員は税金で買えるのでしょうか？

◆「政活費」をめぐる悪事は絶えません。「浜の真砂は尽きるとも世に…」の石川五右衛門もびっくりです。神戸市議「架空のアンケート代に1千万円以上」、堺市議「作成されていないチラシ代金を4年間も」。兵庫県の号泣元議員は氷山の一角で、叩けばホコリが出る議会ばかりです。「不正と疑惑の温床」になっている「政活費」。言葉を変えれば、「政活費」は議員が請求する際に邪まな心が働きやすいものになっているのです。そして邪な心で操作がしやすい制度になっているのです。議員は市税、税金の使い方に最大限の厳しい目をもって監視しなければならない立場です。自らの財布と心の中に邪悪な気持ちがはびこりやすいようなお金を手にしては駄目です。市長の予算執行を監視する目は曇り、調査の足元はふらつき、追及の矛先は鈍ってしまいます。市民が収める税金の使い方を議論するためにも、身綺麗な身体と心を持つ議員であって欲しいものです。そのためにも「政務活動費は廃止」。

<文責：佐藤>

〒573-0027

枚方市大垣内町

2丁目8-27

シンエービル別館A

市民の広場“ひこばえ”

TEL&FAX

072-846-8780

### 平和で豊かな枚方を市民みんなでつくる会

共同代表 黒田 薫 (平和都市枚方を考える市民の会)

鈴木めぐみ (親子のリズム遊び講師)

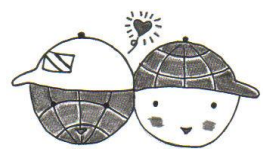
奥村 秀二 (弁護士)

おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)

事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)

メールアドレス：[hiratkatasiminnokai@yahoo.co.jp](mailto:hiratkatasiminnokai@yahoo.co.jp)

ホームページ：<http://hiratkatasiminnokai.jimdo.com/>



「会」のシンボルマーク

塔本賢一さん作